



技術史教育

第121号

2020.1.31

Education for History of Technology

第121号 目次

- 日本技術史教育学会2019年度全国大会(福井・鯖江)開催報告……………高久 有一(1)
 全国大会(福井・鯖江)見学会報告……………武長 玄次郎(2)
 日本技術史教育学会関西支部2019年度総会・研究発表講演会案内……………渡部 紘一(3)
 お知らせ・理事会議事録・編集後記……………(4)

【全国大会報告】

日本技術史教育学会 2019年度全国大会(福井・鯖江)開催報告

2019年度全国大会実行委員会

実行委員長 高久有一(福井高専)

日本技術史教育学会の2019年度全国大会・研究発表講演会が、2019年12月14日に福井高専にて開催されました。福井での開催は、2002年度に福井大学での全国大会以来17年ぶりでした。例年、初雪が降る時期でもあり、早朝の交通機関の遅れなども懸念されるため、少し遅めの午前9時20分からの開催としましたが、当日の朝は天気が良く杞憂に終わりました。また、寒さが厳しくなることもあり、温かく快適に1日を過ごせるよう、本校図書館での開催でした。本校の図書館を発表の場としての利用することは初めてであり、準備等で多くの方にご協力頂き、大変ありがとうございました。

本学会の知名度は、福井高専では高くありませんでしたが、本大会を開催するにあたりアナウンスをしたところ、多くの方に興味を持って頂きました。その結果、本校から新たに3件の発表をさせて頂きました。また、特別講演は、本年度より本校電子情報工学科・教授に赴任された波多浩昭先生にお願いしました。波多先生は、NTTに入社後、NTTコミュニケーションズにてクラウドサービス連携技術等の研究に携わってきた方で、「いまどきのソケットプログラミング」(日経BP)等、複数の書籍の著者でもあります。「1991年バブル崩壊以降のIT技術開発界における失われた20年」というタイトルで、TRON OSについての歴史や裏話など、貴重な事実を教えていただくことができました。

多くの方々にとっては遠方となる福井県での開催でしたが、参加者は23名、発表は17件と多く、分野も多岐に渡り興味の尽きない1日となりました。17件の発表は次に示す通りです。

《技術論・科学論・技術教育 I》

- 1.水銀整流器に関する研究-博物館、教育機関、企における保存・活用状況- 秋山肇(福井高専)
 - 2.キ酸含有培地で生育可能な酵母の単離と同定 伊藤沙也加,松野敏英(福井高専)
 - 3.ロボコンと初等プログラミング教育 青山義弘,村田知也,川上由紀,小越咲子(福井高専)
 - 4.多翼型風車の発電利用に関する一考察 飯野光政,牛山泉(足利大)
- 《技術史・技術文化史》
- 5.「鉄炮板鉄」の生産-櫻井家における特殊技術の保持- 鳥谷智文(松江高専)
 - 6.古代墨壺小考 I -中国の墨壺を中心にして- 佐々木堯(関西大)
 - 7.ハワイ島「ペトログリフ」が伝えること 星朗(東北学院大)
 - 8.八田與一の中国への視点 武長玄次郎(木更津高専)

《技術史・技術論・技術教育》

- 9.壱岐島の古墳 塩津宣子(技術文化史研究会),下間頼一(元関西大)
 - 10.周口店遺跡の猿人に関する実地調査研究-先祖帰り- 下間頼一(元関西大),塩津宣子(技術文化史研究会),小沢康美(福井工大),陳靖遠(北京建築大)
 - 11.機械製図の文化の変革に関する研究 第18報 製図の文化・製図論について(その5) 平野重雄(東京都市大,(株)アルトナー),喜瀬晋,関口相三,奥坂一也(株アルトナー)
 - 12.東京荒川区における自転車生産 吉田喜一(元都立産技高専)
 - 13.松江高専を活用した社会人人材育成事業の変遷および高専教育への展開に関して 久間英樹(松江高専),本多将和,福岡久雄(東京電機大)
- 《工学史・技術文化史》
- 14.何をもって「工学」が成立したとみなすのか?-W.J.M.ランキン(1820-1872)をめぐる加藤邦興(1943-2004)の研究から- 市川浩(広島大)
 - 15.プータン王立大学における測量・地理情報工学科新学科立上げ時の測量実技教育の実践と考察 白井一,清水昭弘(NPO法人国際建設機械専門家協議会)
 - 16.将棋文化史と教育的・医学的効果についての考察 南正晴(元三菱重工)
 - 17.ハウプトマンの『踏切番テイル』と鉄道 山館順(サレジオ高専)

講演発表が終了し記念写真を撮ったころには、外は暗くやや強い雨が降っていましたが、図書館前からバスにて懇親会場へ移動でしたので、濡れることもなかったかと思えます。懇親会では、北陸の海の幸、温かい鶏鍋、セロガニをいただきながら、皆様とお話することができ、実り多き大会になりました。

最後に、皆様のご協力で大大会を無事終了できたことを実行委員一同、お礼申し上げます。



日本技術史教育学会2019年度 全国大会(福井・鯖江)見学会報告

武長玄次郎(木更津高専)

福井県は近年多くの化石が発掘されたことから恐竜王国と認識されており、県ではその学術研究に力を入れるとともに、観光資源としても恐竜を活用しようとしている。国内最大級の地質・古生物を展示する博物館、福井県立恐竜博物館が、今回(2019年12月15日)の主な見学先である。福井駅には大型恐竜のモニュメントが設置され、ベンチに白衣を着た恐竜の人形が数多く飾られている。

勝山市内にあり、2000年にオープンしたこの博物館を訪れるために、見学会参加者は9時に福井駅に集合した。そこからえちぜん鉄道に乗って1時間弱、勝山駅に到着した。なお、えちぜん鉄道は沿線に名所が多くある。2路線あるうち、勝山永平寺線には永平寺、白山神社(平泉寺)、越前大仏などがあり、三国芦原線には三国港、東尋坊などがある。駅からさらにバスでの移動を要する所が多く、恐竜博物館も勝山駅からバスで15分ほどのところにある。

我々見学会参加者は、10時30分頃に到着した。日曜日のこの日、家族連れを中心として多数の来場者でにぎわっていた。当日のように第三日曜日は入場料が無料であり、来場者の多さはそのためもある。デザインは有名な建築家黒川紀章であり、恐竜の卵をイメージしたこの建物は、かなり遠くの距離からでも判別できる。見学者が中に入り、エレベーターで一気に地階まで降りると、そこから建物の広大な空間が目に飛び込んでくるこのユニークな設計と演出は、見事というほかはない。

フクイサウルス、フクイラプトル、フクイティタンなど福井の名を冠した恐竜は多い。この博物館には当然、これらに関連した事物が展示されている。それだけではなく、世界中の恐竜の骨格や化石、ジオラマ、復元模型を見ることが出来る。想像も含めてではあるが、1億6000万年もの間繁栄した恐竜の時代を再現した空間で、はるか昔を体感することが可能となっている。もちろん、豊富な研究材料に恵まれたこの博物館の展示がしっかりした根拠に基づいたものであることは素人目にもわかる。来場者には家族連れが多く、したがって多くの子供がこの博物館を訪れているが、この中から将来「恐竜博士」になり当該分野の研究で功績を挙げて博物館の展示をさらに充実したものにしようとする人物が出ることを期待しよう。

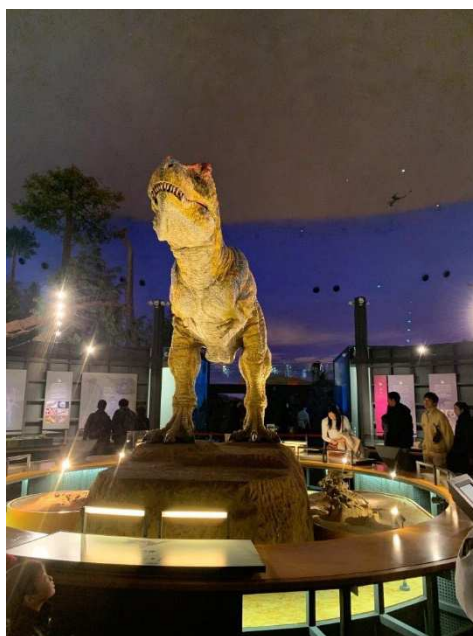
こうした「恐竜の世界」のゾーン以外に、「地球の科学」

「生命の歴史」の2つのゾーンがあり、地球誕生以来の地質、海洋や動植物を含めた数多くの生命について学ぶことも出来る。ミュージアムショップでは恐竜関係のグッズ、書籍などを多数揃えている。

見学会はこの恐竜博物館で一旦終了、解散した。

筆者を含めた一部の参加者は、さらに白山神社、永平寺などを訪れた。白山信仰の拠点であった平泉寺は、源平や南北朝の争いにも関わり戦国時代には一大勢力を築いた。明治初年に神仏習合をやめて白山神社となったが、今でも白山平泉寺と呼ばれることが多い。皇国史観の代表とされる歴史学者平泉澄(第4代宮司)との関わりで知る人も多いだろう。参道の並木道が特に美しい。永平寺は、道元以来曹洞宗の大本山であり、中世から今日まで曹洞禅を奉じる人々にとって信仰の中心地であるとともに、今日多数の人が訪れる福井県有数の観光地でもある。訪れた人々に、非日常の空間に浸る中で己を見つめ直す機会を提供してくれ、僧侶が現に修行を行っている場で少なからぬ文化財を見学することができる。短時間(もちろん望むなら長時間)座禅を組んで見るのもよいだろう。

今回、人類の財産というべき素晴らしい諸所を訪れ見る機会をいただいた、高久有一実行委員長をはじめ福井高専の方々のおかげである。深く感謝申し上げます。



日本技術史教育学会 関西支部2019年度総会(通算第17回) 研究発表講演会(通算第13回)開催案内

支部長 渡部 紘一(元 松江高専)
幹事 南 正晴(元 三菱重工)

主催: 日本技術史教育学会,同 関西支部
協賛: 技術文化史研究会,日本メカニズムアーツ研究会
日時: 2020年3月14日(土) 9:35~17:30
場所: 大阪産業大学 梅田サテライト キャンパスA教室
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前 第3ビル19階(同封の参加申込書裏面に地図記載)
TEL: 06-6442-5522, FAX: 06-6442-5524
http://www.umeda-osu.ne.jp/

《 プログラム 》

受付開始 9:10より

(講演開始後は会場後方で随時受付)

【開会挨拶】 9:35~9:40

関西支部長 渡部 紘一(元 松江高専)

【研究発表講演:技術文化史】

座長 吉田喜一(元都立産技高専)

副座長 井上敏孝(常磐会学園大学)

- (1) 9:40~10:00 壱岐の古墳 続 ○塩津 宣子(技術文化史研究会)、下間 頼一(元関西大学)
- (2) 10:00~10:20 馬の発祥と拡散 -日本に野生原種が現存- ○下間 頼一(元関西大学)、塩津 宣子(技術文化史研究会)
- (3) 10:20~10:40 古代メソアメリカ文明遺跡の実地調査研究 -第6報 マヤ文明古典期終末期のウシュマル遺跡と後古典期のチチェン・イツァ遺跡- 渡部 紘一(元松江高専)
- (4) 10:40~11:00 古代墨壺小考Ⅱ-日本の墨壺を中心にして- 佐々木 堯(関西大学院生)

【休憩】11:00~11:10

【研究発表講演:産業技術史・教育】

座長 白井一(国際建設機械専門家協議会)

副座長 岡村征二(元日本 그리스)

- (5) 11:10~11:30 東京荒川区の煉瓦生産 吉田 喜一(元都立産技高専)
- (6) 11:30~11:50 茨城県の産業技術史に関する基盤・基礎教育の内容と学生からの反応-地域産業及び河川交通・鉄道の授業から- ○堤 一郎(茨城大学)、玉川 里子(茨城大学)
- (7) 11:50~12:10 関西鉄道の研究(第5報)-松居松葉の紀行文について- ○山岡 章宏(技藝工房マップアン)、坂本 勇(元大阪産業大学)

【昼食休憩】12:10~12:55

【特別講演】 座長 下間 頼一(元関西大学)

13:00~14:00 『トライボロジー-研究50年-剛よりも柔-』

林 和宏(大阪産業大学名誉教授)

【休憩】14:00~14:05

【研究発表講演:技術史Ⅰ】

座長 久間 英樹(松江高専)

副座長 山岡 章宏(技藝工房マップアン)

- (8) 14:05~14:25 機械製図の文化の変革に関する研究 -第19報 製図の文化・製図論について(その6)- ○平野 重雄(東京都市大学(株アルトナー))、喜瀬晋、関口相三、奥坂一也(株アルトナー)
 - (9) 14:25~14:45 『潤滑 그리스』その変遷と今後の課題Ⅰ 岡村 征二(元日本 그리스・OS 그리스コンサルタント事務所)
 - (10) 14:45~15:05 交流電化のハイオニアED451電気機関車の足あと 真保 光男(JR東日本テクノロジー)
- 【休憩】15:05~15:10

【研究発表講演:技術史Ⅱ】

座長 平野重雄(東京都市大学・アルトナー)

副座長 佐々木 堯(関西大学院生)

- (11) 15:10~15:30 中世の鉱山採掘法 -露頭掘 編- ○久間英樹(松江高専)、福岡久雄(東京電機大学)、青木美香(日本鉱業史研究会)
- (12) 15:30~15:50 プータン王立大学技術支援小史(第7号)-JNEC工科大学での測量技術の簡易測量と伊能忠敬の測量から見た技術史的な一考察 ○白井 一(NPO法人国際建設機械専門家協議会)、清水昭弘(同左)
- (13) 15:50~16:10 大日本帝国下における石炭積み込み施設の体系 井上敏孝(常磐会学園大学)
- (14) 16:10~16:30 『満濃池』築造の歴史と香川用水 南 正晴(元三菱重工)
- (15) 16:30~16:50 八田與一と浄土真宗 武長 玄次郎(木更津高専)
- (16) 16:50~17:10 続・ハウプトマンの『踏切番ティールと鉄道』 山館 順(サレジオ高専)

【休憩】17:10~17:15

【支部総会】 17:15~17:45

関西支部 全体報告 渡部支部長
会計報告 塩津会計幹事

【集合写真撮影】 17:45~17:50

【交流会】 18:00~19:30

場所:(ALBERIA …JR大阪駅まで約5分)

【参加費】

- ・研究発表講演会参加登録費:3000円(非会員も同額の参加登録費が必要)
- ・昼食代:(同ビル最上階33F“河久”税込1,650円)、要予約。(同ビル地下1階の飲食店街は混雑が予想されます。別紙の参加申込書による予約をお勧めします。代金は昼食会場で各自払い)
- ・交流会参加費:(税込5,000円)

【見学会】

3/15(日)の見学会は、別紙で御案内いたします。

【 2020 年度総会・研究発表講演会講演募集 】

2020 年度総会・研究発表講演会を下記のとおり開催いたします。つきましては研究発表を募集いたしますので、ご希望の方は申込期日までに事務局宛お申し込みください

開催期日:2020 年 6 月 6 日(土), 9:00~

開催場所:サレジオ高専(会場等は次号ニュースレター掲載)

研究発表の申込方法

- ① 講演者名(登壇者は会員であること、氏名の前に○印を付ける)及び所属名
- ② 主題(タイトル)、副題(サブタイトル)
- ③ 講演者連絡先(住所・TEL/FAX・メールアドレス)
- ④ 講演発表時使用機器(パワーポイント等, PC は各自持参)

上記の①から④までを A4 判用紙に記載し、封書で学会事務局宛郵送してください。なお、今回から下記のアドレスに、件名を「2020 年度総会研究発表申込(申込氏名)」とした添付ファイルでの申し込みも受けいたします。登壇講演者は 2020 年度会費を納入済みであること、申込受付後の講演題目変更はできません。

◇研究発表講演申込期限:2020 年 4 月 10 日(金)必着

◇研究発表講演論文原稿提出期限:2020 年 5 月 8 日(金)必着(原稿未着の場合は講演申込辞退とみなし、講演論文集への掲載は致しません)

◇研究発表講演申込先:メール happyou.jseht@gmail.com 宛または封書で〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局 2020 年度総会実行委員会宛お送りください。講演希望件数が多い場合は研究発表の時間を調整させていただきます。あらかじめご了承ください。

【 功績賞・業績賞の候補者募集 】

日本技術史教育学会規定により、下記の要項により、功績賞・業績賞を募集いたします。表彰内容、表彰者資格、表彰候補者の推薦につきましては表彰規定のとおりです。

1. 募集要領

- 1) A4 判用紙を使用
- 2) 表彰の名称(表彰の種類を明記)
- 3) 候補者の所属、部署、氏名(自薦は連絡先を追加)

4) 推薦理由(400 字程度)

5) 推薦者の所属、部署、氏名、連絡先(自薦は不要)

6) 送付先:学会事務局宛、「表彰応募」と封筒に朱記して郵送

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局

2. 募集期限 2020 年 4 月 20 日(月)消印有効(厳守)

3. 問合せ先 学会事務局宛、FAX でお願いします。

FAX:03-3835-2494

4. 贈賞、表彰時期 2020 年度総会

5. その他 表彰規定については学会誌をご参照ください。学会ホームページにも掲載されています。

【 理事会議事録 】

◆第159回(通算202回)理事会

日時:2020年1月25日(土),15:00~17:00,場所:サレジオ高専1階104室(事務会議室),出席者:牛山・鈴木・山館・武長・桑原・高・中條

議題 0) 前回(第158回)議事録案承認,1)各部門報告(総務(ホームページ更新確認、会員動向、会費納入状況)、編集(学会誌、ニュースレター編集関連)、企画(2019年度全国大会開催報告、2020年度総会に関して)、関西支部(2019年度関西支部総会に関して)、2)国際会議開催実行委員会報告(開催及び決算報告),3)創立25周年に向けて,4)その他,5)次回理事会:2020年4月開催予定

【 2020年度会費納入のお願い 】

2020年度会費の納入を、同封した振込用紙によりお願い致します。本学会の運営は会員の皆様の会費でおこなわれています。2019年度までの会費未納の方も、早急な会費の完納にご協力ください。

【 編集後記 】

暖冬傾向で始まりました2020年、皆様いかがお過ごしでしょうか。2020年度総会・研究発表講演会は昨年と同じサレジオ高専で6月に開催いたします。皆様のご講演申込みとご参加を実行委員一同お待ちしております。関西支部2019年度総会研究発表講演会のプログラムを掲載しております。今回は16件もの発表が予定されております。皆様の参加お待ちしております。また2020年度の全国大会は松江高専で秋に予定しております。の皆様のご参加をお待ちしております。(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニュースレター 第121号

2020年1月25日 印刷

2020年1月31日 発行



技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者
編集

日本技術史教育学会 会長 牛山 泉
日本技術史教育学会
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F
TEL/FAX: 03-3835-2494
E-Mail: jseht@nifty.com